



左:ズィルガルヴィス大使 右:石橋理事長

JLSK NEWS

2023年度 関西日本ラトビア協会ニュース Vol.13

関西日本ラトビア協会の概要

所在地	大阪市北区梅田3-3-5 大和ハウス大阪ビル内
設 立	2008年(平成20年)9月24日
会員数	個人会員 82名 法人会員 80社(2024年3月末現在)
事業内容	①ラトビア共和国の文化、スポーツ、経済等で日本との交流に関する情報を集め、会報・インターネット等を通じて発信する。 ②ラトビア共和国から日本を訪問する人達と交流し、活動を支援する。そしてラトビアからの留学生、または日本からラトビアへの留学生に対する奨学金等の支援を行う。 ③日本からラトビア共和国に観光その他の目的で訪問しようとする人達の企画を支援する。

役員

(2024年8月31日現在／敬称略)

名誉顧問	ズィグマールス・ズィルガルヴィス (駐日ラトビア共和国特命全権大使)
顧 問	多賀 敏行 (元駐ラトビア日本国大使) 東郷 武 (前関西日本ラトビア協会会長・前在大阪ラトビア共和国名誉領事)
理事長	石橋 民生 (在大阪ラトビア共和国名誉領事・大和ハウス工業(株)特別顧問)
常務理事	上野 慶三 (Riga Wood Japan 代表) 池田 裕子 (元関西学院大学学院史編纂室 専任主管) 溝口 明子 (SUBARU 代表)
理 事	寺岡 志郎 (大阪日本ボルトガル協会) 谷本 瑞絵 (ラトビア・ヘイズ 代表) 竹村 肇 ((公財)日本棋院 参与) 太田 敏正 ((株)プロアクティブ経営 社長) 石橋 さゆみ ((株)ユニフロー 社長、名誉領事夫人) 大仁 公一 ((株)伸和エージェンシー 社長) 浅野 敏行 ((株)アサノ 社長) 平越 國和 ((株)丸国林業 会長) 上平 豊久 ((株)大伸社 アドバイザー) 清水 良二 (清水木材(株) 社長) 山本 拓 (日本ノボパン工業(株) 社長) 加藤 拓 (アント・キャピタル・パートナーズ(株) マネージングパートナー) 鶴田 宜江 (Cafe Laima 代表) 堀口 大樹 (京都大学 准教授) 鈴木 広隆 (神戸大学 教授) 金井 雅孝 (大和ハウス工業(株) 執行役員 秘書担当) 甲斐 丈晴 (大和ハウス工業(株) 秘書室長) ※事務局長兼務
監 事	木村 宗光 (大和ハウス工業(株) 元取締役) ※理事兼務 近久 啓太 (大和ハウス工業(株) 東京本社総務人事部長) ※理事兼務



発行：2024年9月

編集：関西日本ラトビア協会事務局

大阪市北区梅田3-3-5 大和ハウス大阪ビル

手つかずの自然と
中世の面影が色濃く残る国

Latvia

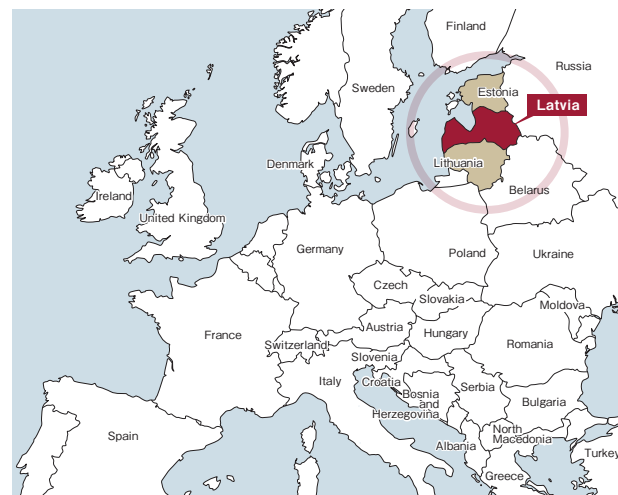
ラトビア



バルト海に面した自然豊かな国

ラトビア共和国は、「バルト三国」の中央に位置する北ヨーロッパの小さな国。北海道の約77%の面積に、およそ190万人の人々が暮らしています。ラトビアの風景の中で、まず印象に残るのは緑の多さ。国土の半分以上を森が占め、河川や湖が点在する自然豊かな土地に、稀少な動植物も生息しています。最高峰でも標高312mしかないため、少し高いところへ登ると、美しい大地がどこまでも広がっている光景に出会えます。

日本と同様に四季があり、新芽が芽吹く緑眩しい春、花の咲き誇る色鮮やかな夏、黄金色に輝く紅葉の秋、モノクロのコントラストが広がる白銀の冬と、変化に富んだ美しい季節がめぐります。



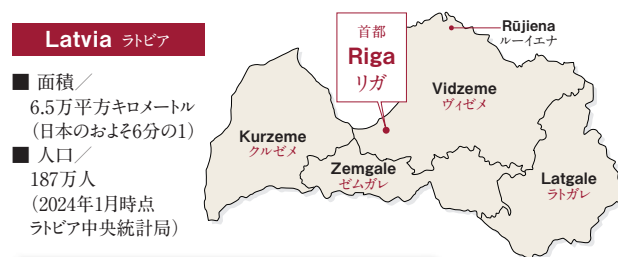
※地図は概略図であり、国名等も省略しています。

まるで中世に迷い込んだかのような街並み Riga リガ

ラトビアの首都リガ市は、ダウガワ川沿いに教会の尖塔が立ち並ぶ美しいパノラマ風景が広がる情緒ある街です。旧市街全体が世界遺産に登録されており、ハンザ同盟時代から残る建築群や石畳が中世の雰囲気をも今に伝えています。馬車の轍が残る細い路地や、時間をかけて丸くなった敷石からは歴史の積み重ねを感じることができます。

さらに、ラトビア人にとって花は生活の一部であり、頻繁に花束を贈る習慣があります。旧市街は中世の面影を残すだけでなく、花や世界トップレベルのオペラやオーケストラなどの音楽が融合し、ラトビアの奥深い伝統文化が滲み出る独特の雰囲気を作り出しています。

リガはまた、1510年に市庁舎広場に立てられたモミの木に世界で初めて装飾が施されたことから、クリスマスツリー発祥の地とされています。11月下旬から1月上旬まで、大聖堂広場を中心にクリスマスマーケットが設営され、ホットワインを片手に買い物を楽しむ人々で賑わいます。



夏至祭

緯度の高いラトビアでは夏と冬の日照時間が大きく異なり、古来より太陽の動きが生活に大きな影響を与えてきました。一年を冬至、立春などの8期に分け、その節目に祭祀を行い、農作業の目安にしてきました。なかでもラトビア人が最も大切にしているのが夏至祭で、太陽から得られるエネルギーや植物の力が最大になると考えられています。この特別な日を家族や親戚、友人と森や海辺で過ごすのがラトビアの夏至祭で、幾つかのしきたりに則って行われます。

まずは草原でたっぷりとお花を摘んで花の冠を作ります(写真①)。同時に御馳走の準備が進められます。中でもキャラウェイシード(香辛料)入りのチーズとビールは必須です。色とりどりの民族衣装に着替えて女性は花の冠を、ヤーニスという名前の男性は樫の葉の冠をかぶればお祭りの始まりです(写真②)。そして、焚火を囲んで歌い、踊り、飲み、食べながら、翌朝まで続く宴を楽しみます。日の入りが近づくとも一年で一番長かった太陽が沈むのを見届け(写真③)、同時に太陽の代わりを表わす篝火を灯します(写真④)。夜が更けても焚火を囲んで宴は続きます。途中、次の一年の健康を

祈願して焚火を飛び越え(写真⑤)、前年の夏至祭で使った冠を焚火にくべて燃やします(写真⑥)。この年の冠は翌年の夏至祭までお守りとして家で飾られます。新しい太陽が昇るまでこうして時間を過ごします(写真⑦)。

ラトビアの民謡では「夏至の夜に眠るものは、夏の間眠ることになる」と歌われており、子どもたちも深夜まで走り回っています。



①両手いっぱいにお花を摘んでから夏至祭へ向かう



②花冠をかぶる女性と、樫の葉の冠をかぶる男性



③一番長かった太陽が沈みゆく海辺



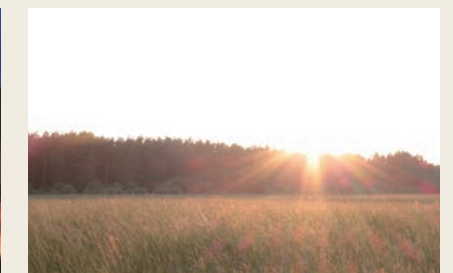
④日没後も焚火を囲んで続くフォークダンス



⑤健康を願って焚火をジャンプ!



⑥焚火と篝火



⑦日の出とともに訪れる新しい朝

History

1282年	リガがハンザ同盟に加盟	1940年 8月 5日	ソ連に編入
1583年	リヴォニア戦争の結果、リトアニア・ポーランド領となる	1974年 6月18日	兵庫県神戸市とリガ市 姉妹都市提携
1629年	スウェーデン・ポーランド戦争の結果、一部分がスウェーデン領となる	1990年 5月 4日	独立回復宣言
1721年	北方戦争の結果、大部分がロシア領、残りはポーランド領となる	1991年 9月 6日	ソ連の国家評議会においてバルト三国の独立を承認
1795年	第3次ポーランド分割により全土がロシア領となる	2004年 3月29日	NATO加盟
1873年	第一回「歌の祭典」開催	5月 1日	EU加盟
1918年 11月18日	独立を宣言	2008年 7月17日	北海道東川町とルーイエナ町(現ヴァルミエラ郡) 姉妹都市提携
1920年 8月11日	ロシア社会主義連邦ソビエト共和国との間に平和条約締結	2014年 1月 1日	ユーロ導入
1921年 1月26日	日本を含む、5か国により、法律上の国家承認	2015年 上半期	EU議長国
		2016年 7月 1日	OECD加盟

※出典：外務省ホームページ <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/latvia/index.html>
在ラトビア日本国大使館 https://www.lv.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html (2024年8月時点)

ウクライナ情勢を自分事として捉えるラトビア

前在ラトビア日本国大使館一等書記官
今西 貴夫



2024年8月1日、ラトビアを離任する前にスウェーデンのストックホルムを旅行した際、リガから飛行機でわずか1時間弱という近さに驚くと共に、窓から見える穏やかなバルト海にもかつて冷戦時代には「鉄のカーテン」が敷かれ、こんなに近いバルト海の西側と東側で人々の生活が全く異なっていたことに思いを馳せました。幼少期をソ連時代の港町リエパーヤで過ごしたあるラトビア人によると、夜になると市民がボートで海に逃げないようにKGBが監視の目を光らせていたそうです。そのようなソ連時代の抑圧の歴史はリガ旧市街の一角にある占領博物館などを訪問すると大変よく分かります。

そして、抑圧の時代を経て1991年に再び独立を勝ち取ったラトビアにとって、2022年2月から続くロシアによるウクライナ侵攻は「対岸の火事」ではなく、ラトビアの多くの人が自分事として捉えてロシアを非難し、ウクライナを積極的に支援しています。ラトビアでは、政府機関や学校、一般家庭でウクライナ国旗を掲げてウクライナへの連帯を示す光景が街中で見られます。



リガ城（ラトビア大統領府）に掲げられたウクライナ国旗（2024年8月撮影）

ラトビア首相府のホームページによると、ラトビア政府はウクライナ政府からの要請に応じて、医療機器、医薬品、インフラ、独立メディアへの支援などを行っているほか、病院、NGO、市民もそれぞれ支援を行い、人道支援の総額は4800万ユーロに上ります。その他、復興支援や軍事支援も行い、ウクライナに対する支援総額はラトビアのGDPの1%を超えて、対GDP比でEUの中でもトップクラスとなっています。また、ラトビアにはロシアとの国境から多くのウクライナ避難民が入国しており、避難民がラトビアで安心して滞在できるように、政府と自治体、市民、NGOが一丸となって、避難民に対する住居、医療、基本的ニーズの充足、社会的・経済的機会へのアクセスなどの支援を行っています。



ラトビア・ロシア国境でウクライナ避難民を支援するNGO施設と国際機関関係者（2023年7月撮影）



レーゼクネ市近郊にあるラトビア赤十字社のウクライナ避難民滞施設（2023年7月撮影）

ウクライナにおける戦争の長期化に伴い、世界各国で「支援疲れ」が見られるとの声が聞かれますが、それはラトビアには当てはまりません。むしろラトビアは、EUやNATOの中で対露制裁の強化や対ウクライナ支援の拡充を加盟各国に訴え続けています。このようなラトビアを今年1月に訪問したゼレンスキー・ウクライナ大統領は、「我々は同じ価値を共有しており、両国における自由の意味は同じである」と述べ、ラトビア国民の根気強い支援に感謝の言葉を述べました。

また、ラトビアは自国の安全保障を強化するために、防衛産業の振興、駐留NATO軍の旅団規模への拡大、徴兵制の再導入、防衛費の対GDP比3%の達成という努力を行っています。再導入された徴兵制では、まず志願兵を優先し、不足分を抽選で補うこととされていますが、2023年の再導入後初の徴兵の際には志願者からの応募が徴兵予定数を上回ったそうで、ラトビア国民の安全保障に対する意識の高さがかがえました。

このように、苦難の歴史を持つラトビアは、世界の中で最も自由、民主主義の価値や平和の尊さを実感し、平和を達成するためにはただ待つのではなく、協力して努力し続けなければならないことを認識している国の一つと言えるのではないでしょうか。



在ラトビア・ロシア大使館の隣の建物にロシアを非難するために掛けられた絵（2024年6月撮影）



ハウス・オブ・ブラックヘッドの入口にもウクライナ国旗が掲げられている（2024年6月撮影）

活動報告

2023 4.1

◆ 初代駐日ラトビア大使とランチ会を開催

初代駐日ラトビア大使で、関西日本ラトビア協会設立時の初代名誉顧問でもあるペーテリス・ヴァイヴァルス大使と、協会有志でランチ会を実施。久しぶりの再会を楽しみました。



写真前列右側 ヴァイヴァルス大使



2023年11月3日、ペーテリス・ヴァイヴァルス初代駐日ラトビア大使が日本とラトビアの関係強化及び友好親善に寄与されたとして、日本の勲章「旭日重光章」を受章されました。

2023 4.8

◆ 日本語弁論大会(2022年)優勝者ラモナ・ルビーナさん来日

2022年、日本語弁論大会で優勝したラモナ・ルビーナさんが来日され、上野 慶三常務理事、竹村 肇理事、谷岡担当、甲斐事務局長で出迎え親交を深めました。



写真左から2人目 ルビーナさん

2023 6.23

◆ 関西日本ラトビア協会理事会、トークサロン「関西学院とラトビア共和国の105年」を開催

理事会では、「2022年度の事業報告」、「2023年度の事業計画」、「新任理事の選任」、そして、「奨学金の追加支援」の議案が上程され、それぞれ承認されました。理事として、新たに神戸大学教授の鈴木 広隆先生、京都大学准教授の堀口 大樹先生をお迎えいたしました。

理事会後は協会会員の皆さまも加わり、トークサロンを開催しました。スピーカーは、2023年3月まで関西学院大

【理事会】



【トークサロン】



【懇親会】



学の学院史編纂室専任主管でありました当協会の池田裕子常務理事をお迎えして、「関西学院とラトビア共和国の105年」と題して、1918年、関西学院高等学部にて教師として配属されたイアン・オゾリン氏のお話から現在までの歴史をご講演いただきました。

講演後は懇親会を実施し、会員の皆さまと交流を深めました。



2023 7.7

◆ 日本語弁論大会(2023年)優勝者パーヴェルス・プシカリョヴスさん来日

2023年、日本語弁論大会で優勝したパーヴェルス・プシカリョヴスさんが、夏休みを使って日本語を学びに初来日しました。名誉領事館にお立ち寄りいただきました。

プシカリョヴスさんは弁論大会前から来日予定を組んでおられて、本大会で優勝したことで年末に再来日できると、とても喜んでおられました。



写真中央 プシカリョヴスさん

2023 8.9

◆ Waibiグループの阿部様と橋田様 名誉領事館を訪問

上野常務理事のご紹介で協会にご入会いただいた、Waibiグループの阿部 文彦様と橋田 亨様に名誉領事館を訪問いただきました。

お二人は今年リガにも行かれ、ラトビアの魅力にとっても感激されたそうです。

Waibiグループでは、Riga Wood Japanを通じてラトビア産の木材を輸入されています。



2023 8.21

◆ 協会の奨学生 宮本 航平さん来館

協会がサポートしていました宮本さんが、無事にリガ工科大学を卒業して帰国され、名誉領事館に挨拶に来られました。

この9月から半年、ラトビア大学に留学する関西学院大学の岩佐さんも加わり情報交換しました。



写真右奥、宮本さん、右手前、岩佐さん



2023 8.22

◆ 日本語弁論大会(2020年)優勝者イエヴァ・パウラ・ドレクスレさん来日

2020年に、日本語弁論大会で優勝したイエヴァ・パウラ・ドレクスレさんが、コロナ禍が明けて来日することができました。

京都にも足を運んで寺社仏閣を見に行ったようです。また、ただ散歩して日本の街並みを見ることも新鮮で楽しいと話をしていました。

この9月から1年間、ラトビア大学に留学する関西学院大学の田中さんも加わり情報交換しました。(於:名誉領事館)



写真左から、事務局谷岡担当、ドレクスレさん、田中さん、甲斐事務局長

2023 9.6～19

◆ 日本語学習者訪日研修のため ナタリア・オガルコワさん来日

「日本語学習者訪日研修」へ、ラトビアから招待したナタリア・オガルコワさんを、上野常務理事と金井理事、谷岡担当でお迎えに行ってきました。

すでに日本語が上手なオガルコワさんですが、9/6～19のスケジュールで行われた研修に参加して更に成長し、無事に修了式を迎えました。

式には上野常務理事と甲斐事務局長が参加しました。初来日のオガルコワさん、充実した研修を送られ、もっと日本を好きになったようです。「これからも日本語を勉強して、また来日します」と心強い言葉をいただきました。



国際交流基金 関西国際センターにて(大阪府泉南郡)





「日本語学習者訪日研修」に参加した各国の皆さま

2023 9.23/24

◆「世界のかawaiiもの展」にてラトビアトークショー等開催

9月23日、24日に大阪梅田の阪急百貨店で開催された「世界のかawaiiもの展」にてラトビアについてのトークショー、伝統楽器クアクレのミニコンサート、そしてラトビア雑貨販売等が行われました。



鈴木 亜衣さん(協会会員)

2023 10.2

◆ 関西日本ラトビア協会 総会開催

4年ぶりに関西日本ラトビア協会の第15回総会がガーデンシティクラブ大阪で行われました。ゲストに駐日ラトビア共和国 特命全権大使のズィルガルヴィス様、政府代表/特命全権大使(関西担当)の姫野様、神戸市 国際部長の垣内様、神戸市 国際部国際課担当係長の森本様をお迎えし、約60名の会員の皆さまにご参加いただきました。

総会後にはズィルガルヴィス大使に「ラトビア-現状と今後の展望-」の演題でご講演いただき、コロナ禍の状況やウクライナ情勢等についてお話いただきました。普段お聞きできない興味深いお話であったという間の1時間でした。

その後、来賓の姫野様、垣内様からのご挨拶、および池田常務理事の乾杯のご発声で懇親会に移り、会員の皆さまと親睦・交流を深めることができました。そして上野常務理事による中締めにより、盛況に終わりました。

ご参加いただきました皆さま、誠にありがとうございました。

関西日本ラトビア協会 第15回 総会

■日時：2023年10月2日

■場所：ガーデンシティクラブ大阪「オリオン」

《式次第》

【総会】(16時00分 開会)

主催者挨拶 石橋民生 理事長(在大阪ラトビア共和国名誉領事)

2022年度 事業報告・監査報告 事務局・木村宗光 監事

【講演会】(16時15分 開始)

講師 駐日ラトビア共和国 特命全権大使

ズィグマールス・ズィルガルヴィス様

演題 『ラトビア-現状と今後の展望-』

【懇親会】(17時30分 開宴)

ご来賓 挨拶 姫野勉 様 政府代表/特命全権大使(関西担当)

ご来賓 挨拶 垣内正雄 様 神戸市 国際部長

乾杯 池田裕子 常務理事

中締め 上野慶三 常務理事





【講演会】

ラトビア ー現状と今後の展望ー

講師 駐日ラトビア共和国 特命全権大使
ズィグマールス・ズィルガルヴィス大使

〈略歴〉

2022年8月 駐日大使にご就任。2004年からラトビア共和国
外務省に勤務、在アラブ首長国連邦 臨時代理大使 外務省
対外貿易・対外経済関係推進部長等を歴任されております。

ラトビアの政治・経済状況と 安全保障

近年のラトビアにおける経済・政治・防衛・文化の発展について少しお話をさせていただきます。

ラトビアと日本の関係は近年益々発展しており、日本はラトビアにとってアジアで一番大事な国になりました。

ラトビアは2023年、政治のリーダーが交代しました。7月8日、新大統領に元外務大臣のエドガルス・リンケービッチ氏が就任しました。続いてこの9月には首相も交代し、エビカ・シリニャ女史が首相に就任しました。これによって現在バルト三国とも女性首相になりました。日本も同様ですが、私たちの政治システムにとって、国のリーダーは重要な存在です。

依然としてロシアのウクライナ問題は継続しており、わが国は外交についてはNATOとEUの強力なパートナーとしてコミットし続けています。もちろん日本は友好国として大事なパートナーです。

国家の安全保障は私たちにとって国の内外を問わず最優先事項です。ロシアのウクライナ侵攻も大きな問題ですので、後ほど言及します。

もう一つの優先事項、これからチャレンジしていかなければならないのは経済です。近年わが国の経済成長率は緩やかに下がっています。2023年はゼロ成長近くになりつつあります。ラトビア銀行の見通しでは成長率は1%をキープできるかどうかといったところです。



これには理由がいくつかあります。一つは、金利の上昇です。借入れ金利が上がったため、個人も企業も借入れに後ろ向きになりお金を使わなくなりました。

二つ目は、ラトビアの主要な輸出品の需要が減っていることです。他のヨーロッパ各国と比べて、ラトビアのインフレ率は極めて高く、2023年は約8.5%から9%が予想されています。しかし私たちは少しずつでも成長していけると信じ、常に楽観的な考え方に立って、輸出にフォーカスしている国内企業を支援しながら、新しいマーケットを発掘していきたいと思います。本日来られたFORTES社(※)のようなユニークな技術を持つ企業を支えながら経済成長を実現していきたいと思います。

※ラトビアのバイオ企業で神戸にて事業を検討中

文化的ハイライトと 国際的な成功

そして2023年は特別な年です。その一つは5年に一度開催される「歌と踊りの祭典」が150周年を迎えた記念すべき年であることです。2023年は特に多くのゲストにラトビアにお越しいただきました。今回も日本ラトビア音楽協会の合唱団がイスマに参加いただき大変ありがたく思います。祭典の間だけでなく今後ずっとこの喜びが続いてほしいです。

もう一つのすばらしい出来事は、9月にサウジアラビアで行われたユネスコの会議で、クルディーガの旧市街が「世界文化遺産」に登録されたことです。



またスポーツの分野では、5月にラトビアのナショナルアイスホッケーチームが世界選手権で初めて銅メダルを獲得しました。9月はバスケットボールの世界選手権でラトビアは5位になりました。190万人の人口の国でこれらの賞をとれたことは本当に名誉なことです。バスケットチームの準々決勝進出が決まった時、私は試合を見に行くために、すぐにフィリピン・マニラ行きのチケットを取りました。

ラトビアへの投資についてご興味のある方が多いと思いますので、安全保障の話に戻ります。現在の状況は安定していますが、やはり緊張感が残っています。不幸なことに、勝利が期待されていたウクライナ軍は一進一退の状況です。それを嘆くことなく、常に我々は彼らを支え続けていきます。そのために国の防衛予算もGDPの3%を目指しています。

ウクライナの戦士は、彼ら自身のためだけではなく、全世界の市民のために戦っています。そしてヨーロッパの他の同じ志を持つ国のために戦っていると信じています。それはヨーロッパだけでなく、西太平洋地域全体の安全保障にも関わっています。

もちろんウクライナ自身も自国内に様々な問題を抱えており、それに対処しなければなりません。ロシアはそれをいいことに、利用し、責め立て、誤った情報を発信しています。しかし我々は、今後ずっとウクライナを支え、助けていくことを繰り返し伝えたいと思います。我々は決して戦争を許すことはできません。

日本とラトビア間の 交流と将来の展望

このように問題はありますが、現状のラトビアに関して言えば、投資環境は確実に安全と言えます。私が保証します。我々は強力な軍事力のNATOと、強力な政治的国家連合EUに加盟しています。ウクライナにも今すぐにでも両方に加盟してほしいと思います。それによって彼らも強力なサポーターを得ることになりますから。

我々は同じ考えを持つもの同士が一緒になることで、より安全に暮らせ、より繁栄していけます。日本とラトビアも志を同じくしていること、関係が広がっていることを喜ばしく思っています。これから



もその関係が続いていくよう私も努力していきたいと思います。

2023年は日本とラトビアの間で様々な要人往来がありました。あわせて両国の首脳はヨーロッパで何度も面談を行いました。この夏にはNATOのサミットで首相同士の会合があり、歌と踊りの祭典の際には、日本から多くの代表団が訪れましたが、その中には日本ラトビア友好議員連盟会長の中曽根弘文参議院議員もおられました。そしてつい2週間前には、ラトビアから最高裁判所の代表団が初めて来日し司法府間交流を行いました。

経済面での交流も活発で、9月にはジェトロの視察団がバルト三国を訪問し、その中でラトビアには2日間滞在いただきました。

ラトビアの企業は2025年の「大阪・関西万博」もビジネスチャンスとして大変期待しています。2023年3月に東京にて開催された「フーデックス・ジャパン2023」に出展したラトビア企業の食品が、その数か月後には取引が決まり、東京の店舗の売り場で売られているのを見つけました。我々はこれからも、ラトビアの企業が日本でもっと精力的に活動していくことを支援していきます。

そして2024年は神戸とリガの姉妹都市50周年の年です。その記念すべき年に確実にビジネスにおける交流が活発になることを期待しています。皆さまも神戸市さんからの情報をフォローいただき積極的な参加をお願いいたします。

その翌年には「大阪・関西万博」があります。この機会にラトビア政府としては、よりアクティブに情報を提供しながら、ラトビアと日本の企業交流の支援に努めていきたいと思います。協会の皆さまも、引き続きご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。

あらためて石橋理事長はじめ、オープンで誠実な対応をしてくださる協会会員の皆さまに心より感謝申し上げます。



【ご来賓 挨拶】

姫野大使（政府代表／特命全権大使（関西担当））挨拶

本日、三点お話しさせていただきます。まず一つ目、日本とラトビアの関係が大切だということです。世の中はロシアのウクライナ侵攻によって変わりました。人と人や国と国、会社と会社において、本当に大事なのは、お互いが信頼・安心できるかであります。日本とラトビアには、その信頼関係がしっかりとあります。引き続き大切にしていかなければなりません。

二つ目は、この関西日本ラトビア協会が、日本とラトビアの架け橋として、大切な役割を果たしているということです。コロナ時期でしたが、外務大臣表彰を受けていただきました。このことをこの場

でお話しすることができて大変うれしく思っています。

三つ目は、来年2024年は神戸市とリガ市の姉妹都市提携50周年、再来年2025年は大阪・関西万博があります。関西で、大きなイベントが控えています。日本とラトビア、共に力をあわせて取り組んでいくことができればと願っております。



垣内部長（神戸市国際部長）挨拶

神戸市はラトビアの首都リガ市と1974年に姉妹都市提携を締結し、文化や教育など様々な面で交流を続けてまいりました。そのような中、来年2024年で50周年を迎えることとなりました。これからも、神戸市とリガ市のみでなく、関西とラトビア、そして日本とラトビアの架け橋としてさらなる発展に寄与していきたいと思っております。

2024年6月には姉妹都市提携50周年を記念し、リガ市へビジネスにフォーカスした訪問団の派遣を計画しております。皆さまも、ぜひ訪問団に参加いただければと思います。また、2024年秋ごろ

にリガ市からの訪問団の受け入れも計画しております。

神戸市とリガ市の交流は、駐日ラトビア大使館、外務省、そして関西日本ラトビア協会の皆さまによって支えられてきたと思っております。

これからも引き続きご支援をよろしくお願いいたします。



【主催者挨拶】

【乾杯】

【中締め】



石橋理事長



池田常務理事



上野常務理事

2023 10.3

◆ ズィルガルヴィス大使 関西学院大学で講演

駐日ラトビア共和国大使館 ズィグマールス・ズィルガルヴィス大使が関西学院大学にて「ラトビア、鋼の意志を持つ人々がミッションと大志を抱く国」というタイトルで講演されました。

あらゆる角度からラトビアについてお話しいたいただき、出席者も興味深く視聴されていました。



写真左から、田中敦経済学部教授、池田常務理事、ズィルガルヴィス大使、小林伸生経済学部長

2023 11.9

◆ 北欧フェアにて「ウズマニープ」ミニライブ開催

大阪梅田の阪神百貨店「北欧フェア」にて、ラトビア音楽ユニット「ウズマニープ」さんのミニライブが開催されました。

自然に寄り添って、季節を大切にできたラトビアにシンパシーを感じます。心に沁みるラトビアのメロディをクワクレと、バイオリンのハーモニーで楽しみました。



2023 11.14

◆ ヴァランティス経済副大臣来日

ラトビア共和国エドムンズ・ヴァランティス経済副大臣来日に伴い、石橋理事長はじめ、上野常務理事、池田常務理事、清水 良二理事、そして協会を長年サポートいただいていますアリナ・アシェチュプコワさんも加わり、ラトビア経済、万博の話等、情報交換をしました。（冒頭だけでしたが、ラトビアの万博担当のラースマ・リーダカ ディレクターとご挨拶をさせていただきました。）



写真左から3人目リーダカさん、4人目アシェチュプコワさん、5人目ヴァランティス経済副大臣

2023 11.16

◆ 第105回ナショナルデー開催

ラトビア大使館で開催されたナショナルデーを祝うレセプションに石橋名誉領事夫妻をはじめ協会有志が参加。

合唱団ガイスマによる素晴らしいラトビア国歌 "Dievs, svētī Latviju" 「ラトビアに幸いあれ」と「君が世」斉唱に始まり、ズィルガルヴィス大使夫妻を囲んで、歴代の駐ラトビア日本国大使、長内敬様、藤井真理子様、川口康裕様ほか、ラトビア愛に溢れる皆さまと共に、105回目の記念日を祝福し楽しいひと時を過ごしました。



2023 11.23

◆ Viktor Busigin(ブシギン)さんとの交流

ラトビアで合気道の先生をし、ある時は、ピエロになってパントマイムをしておられるViktor Busigin(ブシギン)さんと交流を深めました。

初来日となったブシギンさんは、10代の頃、黒澤映画を観て日本に興味をもったとのこと、日本に来ることができて若い頃の夢が叶ったととても喜んでおられました。



2024 1.20

◆ トークサロン開催：ラトビア留学活動報告

昨年リガ工科大学を卒業された、宮本さん(協会奨学生)をお招きし、「ラトビア留学活動報告」のタイトルで講演いただきました。

ラトビアでの日常生活や、大学での体験をありのままお話しいただき、参加いただいた会員の皆さまからも、大変好評をいただきました。

講演後は、宮本さんも交え懇親会(交流会)を開催いたしました。



写真左から3人目 宮本さん



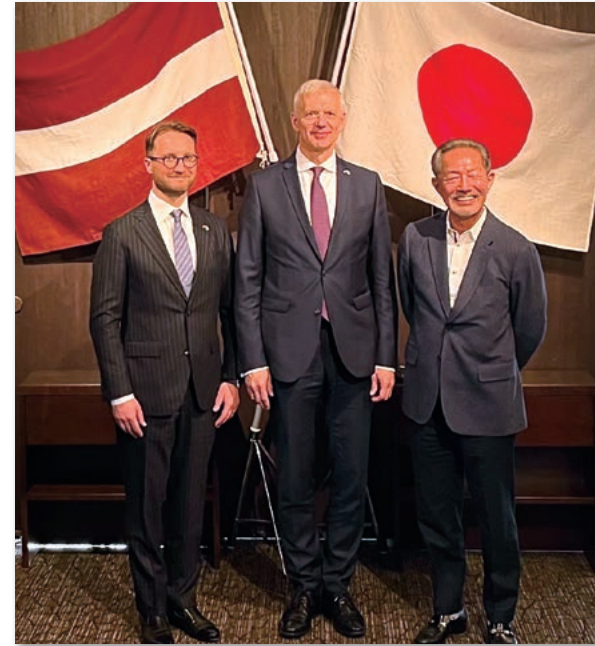
2024 2.7

◆ カリンシュ外務大臣(元首相)ご一行 初来日

初来日されたクリシュヤニス・カリンシュ外務大臣(元首相)ご一行をお迎えし、石橋名誉領事主催の歓迎会を「一味真」(東京オペラシティ)にて開催しました。

協会からは上野常務理事、上平 豊久理事、金井理事が参加し、日ラ友好の歴史を振り返りつつ、未来に向けて幅広い話題で懇親を深めることができました。

カリンシュ外相は、8日上川 陽子外務大臣と会談され、9日には東京大学で講演会を行われた後、離日されました。



写真中央 カリンシュ外務大臣



2024 3.18

◆ 駐ラトビア日本国大使 高瀬大使来館

一時帰国をされた駐ラトビア日本国大使 高瀬 寧大使が、名誉領事館に訪問してくださいました。

高瀬大使を囲んで、石橋名誉領事ははじめ協会理事有志でラトビアの現況や日本とラトビア関係の話など情報交換をさせていただき、楽しいひと時を過ごさせていただきました。



前列中央 高瀬大使

2024 3.21

◆ 留学生 牧さんが来館

ラトビアに2022年から1年間留学されていた、牧さんが上野常務理事と一緒に名誉領事館を訪問くださいました。

4月から新社会人、新しい環境で大きく羽ばたいてください。



個人会員

50音順敬称略(2024年8月31日現在)

穂山 和生	正司 泰一郎	古川 一郎
東 美紗都	鈴木 亜衣	古川 岩夫
安達 和彦	田口 瑠璃	古田 晴彦
阿部 文彦	竹内 大樹	古海 賢二
荒木 美真	立岡 弘	堀田 健二
アリナ・アシェチェプコワ	田中 伸一	堀内 知子
池田 政雄	田中 悠樹	間崎 泰光
石原 美生子	津田 恵美	益田 信行
伊藤 茂男	東郷 久野	松田 咲希
伊藤 正男	轟木 裕子	丸山 竜誠
今城 孝司	中井 敦予	三木 保人
岩井 香代子	中島 文子	水谷 隆之
岩井 二郎	長塚 徹	宮本 航平
植田 多江子	永見 義広	宮本 菜穂
上野 龍平	夏目 剛	物部 健依
宇陀 性現	西崎 明美	桃井 猛
榎本 勤	西野 勝弘	森本 健太郎
大橋 正孝	橋田 亨	安田 敏男
岡 美文	橋本 大樹	安田 勝
河端 健司	濱田 賢時	山崎 志野
木下 武幸	早川 明弘	山原 一晃
小巖 仰	平田 大	山村 有佳里
権藤 眞禎	藤原 和之	
阪上 義昭	藤原 秀之	

法人会員

50音順(2024年8月31日現在)

株式会社アサノ	サンスター技研株式会社	株式会社南都銀行
朝日ウッドテック株式会社	サントリーコーポレートビジネス株式会社	日鉄鋼板株式会社
株式会社朝日押捻子製作所	サントリービバレッジソリューション株式会社	日鉄建材株式会社
株式会社旭屋書店	サン美術印刷株式会社	日鉄物産株式会社
株式会社石川製作所	清水木材株式会社	日本製鉄株式会社
株式会社イシモク・コーポレーション	昇信化成株式会社	日本アーツ株式会社
株式会社伊藤園	新宮エネルギー株式会社	日本ノボパン工業株式会社
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	株式会社申明	ニホンフラッシュ株式会社
稲畑産業株式会社	株式会社伸和エージェンシー	株式会社ノザワ
因幡電機産業株式会社	スターネット株式会社	富士通株式会社
株式会社岩崎貞三商店	セコム株式会社	フルサト工業株式会社
株式会社インターネットイニシアティブ	株式会社ゼンリン	文化シャッター株式会社
SMB建材株式会社	総合警備保障株式会社	松本林業株式会社
SCSK株式会社	損害保険ジャパン株式会社	株式会社丸加商店
SCSKサービスウェア株式会社	ダイキン工業株式会社	株式会社丸国林業
エス・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社	株式会社大伸社	丸紅木材株式会社
エフサステクノロジーズ株式会社	ダイドードリンコ株式会社	株式会社マルホン
応用技術株式会社	大日鋼業株式会社	株式会社みずほ銀行
大阪ガス株式会社	大和ハウス工業株式会社	みずほ信託銀行株式会社
株式会社大塚商会	大和物流株式会社	株式会社三井住友銀行
河村電器産業株式会社	大和リース株式会社	株式会社メディアテック
株式会社キョーライト	タカラスタンダード株式会社	株式会社ユニフロー
クマリフト株式会社	チヨダウーテ株式会社	株式会社LIXIL
株式会社構造計画研究所	ツカ・カナモノ株式会社	株式会社RYODEN
三京化成株式会社	株式会社デザインーク	渡辺パイプ株式会社
株式会社山水	株式会社東芝	

ラトビアのモミの木

2023年12月20日

協会事務局前庭に移植した、ラトビアのモミの木に
クリスマスの飾りつけをいたしました。
少しずつ成長しているモミの木です。



編集後記

ここ数年、コロナ禍で協会活動が制限されておりましたが、2023年5月に5類へ移行したことで活動が戻ってまいりました。4年ぶりに開催した総会では約60名もの皆さまにご参加いただき、とても活気に満ちた会合になりました。ご参加いただきました皆さまありがとうございました。

2023年度活動の中には協会発信の活動だけではなく、協会会員様の活動に協会が関わらせていただいたり、また、協会の奨学生ではない日本からラトビアへの留学生との交流を行うなど、これまで以上の活動の広がりもあり、コロナ禍で蓄積されていたエネルギーを開放させた1年だったのではないのでしょうか。

2025年は大阪で「大阪・関西万博」が開催されます。ラトビアは、リトアニアと共同でパビリオンを出展する形で進めています。ラトビアを知っていただける良い機会と捉え、協会としても支援していきたいと考えています。

今後も引き続き、ラトビアと会員企業の皆さまを繋ぐ活動を続けてまいりますので、ご支援ご協力お願いいたします。末筆になりますが、当会報誌制作にあたり、ご寄稿をいただきました今西様、制作の助言・サポートをいただきました溝口常務理事に御礼を申し上げます。

（事務局長 甲斐）